



2011年3月11日14:46 東北地方太平洋沖地震発生。8.57mの津波が襲った



津波後の悲惨な状況(市職員、瓜田氏から写真を頂いた)



85名が亡くなり416戸の住宅が全壊

復興協議会事務局

【復興協議会事務局】
 2011年8月に「ふるさと豊間復興協議会」が設立された。しかし応急仮設の協議会事務所は雨漏りがする状況、また住民が話し合うには狭い建物であった。そこで東京の支援者グループ*1の呼びかけで、皆で力を合わせてサポートセンターを創ろうということになった。

■費用をどうするか
 模型を作り協議会とイメージを共有した後、仕上げを記入したスケッチを描き南会津の工務店*2に概算を出していただいた。その費用について、いわき市からの補助金と豊間区からの拠出、木材の一部は南会津町から物資支援、設計は支援(筆者)*3、組み立ては学生ボランティア、それでも足りず、東京支援グループにより寄付金を集めることとなった。

■建物の工夫
 建物は地震に強い形として六角形を採用、水平応力を全体の壁で支えることができる。誰でも組み立てられるよう木造パネルで設計した。木造パネルは4種類、大、小、筋交入、筋交無し、4種類で壁、屋根すべてが構成できるよう寸法調整した。屋根は単純な山形であるが、四隅の柱は、地元産の「びやくしん」という趣のある樹種を用い地域性を反映させた。

■ワークショップのスケジュール化
 建設はすべて素人ではできず工務店に依頼する部分がある。また支援者は土日に建設に関わることができる点を考慮し、3回のワークショップを組んだ。第一回ワークショップは、パネル組立、屋根断熱材、屋根防水シート貼り、第二回のワークショップは、壁に断熱材替わりの古新聞詰めとデッキ造り、第三回ワークショップは塗装と竣工イベントを行い、それ以外の工事は工務店にお願いする、という形で予定を組んだ。学生は以前筆者が実施した海外ワークショップ参加者も含め、8大学から18名が集まり、東京支援グループからは10名、これに地元からの参加者が加わるという計画を立てた。

サポートセンターづくりワークショップの参加募集



筋交いのパネルと一般パネルを用いて組み立てる



壁の上部は斜め寸法取りが難しい



屋根の防水シート貼り、学生も昇った



宿泊は皆で雑魚寝



外壁の色の投票



ふるさと豊間
復興協議会事務所

【いわき市豊間サポートセンターづくりワークショップ】
＜支援者と住民協働によるセルフビルド型の建築＞

連健夫(建築家・再生ふるさと豊間東京支援グループ)

福島県いわき市豊間地区は東日本大震災の津波で85名が亡くなり、607戸の内416戸の住宅が全壊、市内最大の深刻な被害を受けた。2011年8月に「ふるさと豊間復興協議会」が設立された。しかし応急仮設の協議会事務所は雨漏りがする状況、また住民が話し合うには狭い建物であった。そこで東京の支援者グループ*1の呼びかけで、皆で力を合わせてサポートセンターを創ろうということになった。

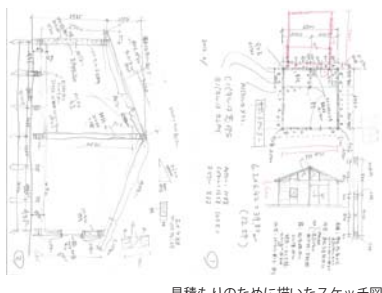
■費用をどうするか
 模型を作り協議会とイメージを共有した後、仕上げを記入したスケッチを描き南会津の工務店*2に概算を出していただいた。その費用について、いわき市からの補助金と豊間区からの拠出、木材の一部は南会津町から物資支援、設計は支援(筆者)*3、組み立ては学生ボランティア、それでも足りず、東京支援グループにより寄付金を集めることとなった。

■建物の工夫
 建物は地震に強い形として六角形を採用、水平応力を全体の壁で支えることができる。誰でも組み立てられるよう木造パネルで設計した。木造パネルは4種類、大、小、筋交入、筋交無し、4種類で壁、屋根すべてが構成できるよう寸法調整した。屋根は単純な山形であるが、四隅の柱は、地元産の「びやくしん」という趣のある樹種を用い地域性を反映させた。

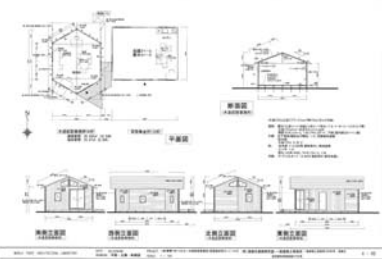
■ワークショップのスケジュール化
 建設はすべて素人ではできず工務店に依頼する部分がある。また支援者は土日に建設に関わることができる点を考慮し、3回のワークショップを組んだ。第一回ワークショップは、パネル組立、屋根断熱材、屋根防水シート貼り、第二回のワークショップは、壁に断熱材替わりの古新聞詰めとデッキ造り、第三回ワークショップは塗装と竣工イベントを行い、それ以外の工事は工務店にお願いする、という形で予定を組んだ。学生は以前筆者が実施した海外ワークショップ参加者も含め、8大学から18名が集まり、東京支援グループからは10名、これに地元からの参加者が加わるという計画を立てた。



福島県いわき市豊間地区の位置



見積りのために描いたスケッチ図



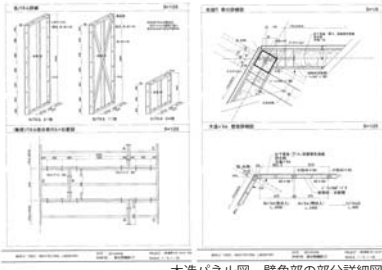
サポートセンターの平面、立面、断面図



当初のプレファブ復興協議会事務所



サポートセンターの模型

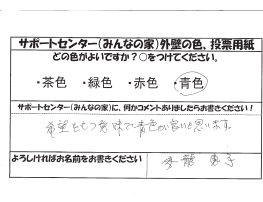


木造パネル図、壁角部の部分詳細図



ワークショップのスケジュール表

*1 再生ふるさと豊間東京支援グループ(東京都立大学卒業生中心の支援グループ、高見沢邦郎代表、山本忠副代表、佐藤俊一事務局長)、*2 施工: ㈱大桃建設工業、*3 (南)連健夫建築研究室一級建築士事務所



投票用紙



青:19票で青色に決定



第一回ワークショップ完了の記念撮影



新聞を丸めながらおぼろげな会話をを楽しむ

■第一回ワークショップ（木造パネルの組立）

2012年5月12日、13日、14日
参加人数：地元18人・支援者22人



土台に柱を立て棟木を乗せる



屋根裏にウレタンフォームを押し込む



木造パネルの組立、接合はボルトナット



上棟イベント：外壁の色の投票（青色に決定）

柱と棟木の設置は工務店にお願いし、その後、皆で協力して木造パネルを組み立てる。パネルはボルトナットで堅結し一体化した壁を構成する。その上に梁を取付け、屋根パネルを乗せて金物で堅結。屋根の裏には断熱材・ウレタンフォームを押し込んだ。上棟イベントとして外壁の色の投票を実施、青色が一番となった。投票用紙の理由の欄には、「きれいな豊間の海と空の色」と記入されていた。



遊び場、集会場、皆で利用する場の大切さが表れている



復興街づくりワークショップ、産業再生を含め幅広い議論



災害公営住宅への要望を付箋に書いてまとめる



サポートセンター完工後の災害公営住宅ワークショップ



神主さんによる竣工式



テッキの塗装、参加学生は体験を楽しんでいた

■第二回ワークショップ

（壁に断熱材替わりの新聞詰め）

2012年5月26日、27日
参加人数：地元48人・支援者12人



おばちゃん達は新聞を丸めながら、楽しくおしゃべり



新聞を壁に積めてテープで押さえる



新聞が壁にびっしり詰まった



夕食時に地元の方から震災時の話を聞く

壁に断熱材替わりに新聞を詰める。コストダウンが図れると共に、子供や女性も参加できる。おばちゃん達は、輪になって世間話をしながら、とても楽しそうに丸める。協議会の方は、「震災以後、あのような笑顔を見るのは始めてだ」と喜んでいただいた。古新聞は区全体から多く集まった。新聞詰めに参加できなくとも古新聞を提供する形で参加が意識できる。夜の飲み会では、地元の方から震災時の話を聞くことができた。

■第三回ワークショップ（塗装）

2012年6月2日、3日
参加人数：地元45人・支援者21人



道路側の壁に描かれた絵、海と太陽、塩屋崎灯台



子供と一緒に外壁を塗装、地元新聞にワークショップが掲載



完成！皆で記念撮影をする



奥が区長席、六角形の平面がじっくり馴染む



お昼は福人会で作っていただいたお弁当を皆で食べる



塗装ワークショップ、高いところの台が必要



新聞詰めのワークショップ、グループで役割分担

外壁に投票で決まった青色の防腐着色塗料を塗る。道路側の壁はキャンパスに見立て、子供も一緒に自由に絵を描いてもらった。竣工イベントとして、支援側の高見沢代表から鈴木区長に寄付金目録が手渡された。ワークショップは地元新聞に「住民ら力合わせ“建設”」という見出しで取り上げられた。●ワークショップにおける支援者と地元との協働作業により信頼関係が生まれ、9月～12月の災害公営住宅や復興まちづくりワークショップ（開催回数：12回、住民参加者数：延べ約300名、東京専門家支援グループ参加者数：延べ約80名、いわき市建築士会参加者数：延べ約60名）がまとまりを持って実施できたのも無縁ではないと思われる。

- ◆第一回参加支援者（大出真裕、小川真之、佐藤俊一、澤岡詩野、塚原信孝、原三千雄、松村哲志、連健夫、石田真弥、井津利典、岩阪英輝、岩田修治、亀井一朗、サチルラト、島瑞穂、田中良典、辻本英里、中原稔司、三井政俊、宮地洋、山下美咲、吉田智大）
- ◆第二回参加支援者（大出真裕、佐藤俊一、塚原信孝、連健夫、飯嶋雄二、石島健史、石田真弥、市原由紀、海川拓也、呼野健美、品田真徳、岡川洋基）
- ◆第三回参加支援者（秋山哲男、大出真裕、大塚英史、小野寺初枝、佐藤俊一、塚原信孝、中田隆、原三千雄、古里実、連健夫、茂木泰、山本忠、飯嶋雄二、石島健史、石田真弥、五十嵐桂太、市原由紀、海川拓也、呼野健美、北一輝、品田真徳、山下美咲）
- ◆9～12月ワークショップ参加支援者（大桃一浩、小川真由紀、加藤仁美、佐藤俊一、澤岡詩野、豊永真理子、高見澤明、塚原信孝、古里実、松本希子、連健夫、葉袋奈美子、山本忠）



壁内部の新聞の断熱材が分かるように設けた小窓



第二回ワークショップ完了の記念撮影



鈴木区長も一緒に壁に新聞を詰める



柱の下は石で固めた



子供も大人もおもしろい！みんな一緒に柱を描く